

## 第2学年道徳科学習指導案

令和5年9月25日(月)

授業提案者 月野 江理香

- 1 主題名 してはいけないこと(教材名「わりこみ」日本文教出版)
- 2 ねらい 自分勝手な行動はいけないことだということを知り、誰もが気持ちよく生活できるように正しい行動をしようとする実践意欲と態度を育てる。

### 3 主題設定の理由

#### (1) ねらいとする価値について

本主題は、内容項目A-1「よいことと悪いことの区別をし、よいと思うことを進んで行うこと。」をねらいとしている。

人が健全な社会生活を営むためには、物事の善悪についての的確に判断し、自ら正しいと信じることに従って主体的に行動することが大切である。しかし、判断を誤ったり、判断しても行動に移せなかったりすることもある。そのため、幼い時期から、人として行ってよいことと行ってはいけないことをしっかり判断する力を身に付けさせるとともに、よいと思うことを自信をもって行おうとする態度を養っていく必要がある。

この期の子どもは、善悪の判断について自分の都合で考える傾向がある。また、正しいことだと判断しても、自分の考えに自信がもてなかったり、周囲に遠慮したりして主体的に行動に移せないこともしばしばある。そこで、このような内容を学習することは、正しく善悪の判断をすることの大切さに気付き、よいと思ったことを遠慮なく行動に移そうとする道徳的判断力や態度を育成するうえで意義がある。

#### (2) 子どもについて

本学級の子どもは、明るく活発に学習や活動に取り組んでいる。友達の言動によく注目していて、廊下を走ったり、無言の場が守れなかったりしていた友達の報告を教師にすることがしばしばある。その一方で、自分自身の行動の判断については、後先考えず、自分の都合を優先している様子も見受けられる。また、自分の判断に自信がもてず、いけないことをしている友達に遠慮して注意できない子どももいる。これは、してはいけないことをするとどうなるのか深く考えが及んでいなかったり、よいと思うことを進んで行動に移すことの清々しさに十分気付いていなかったりすることが原因であると考えられる。

道徳科の学習においては、挿絵を示したり、教材の内容を整理したりするなかで、問題となる場面を具体的にイメージし、自分の思いや考えをもつことができるようになってきている。また、友達が発表した意見をノートにメモする子どももいる。しかし、教材をとおして考えたことと実生活を結び付けて自分の行動を見つめ直したり、考えたことを積極的に発表したりすることについては今後の指導によるところが大きい。

#### (3) 教材について

そこで、自分勝手な行動はいけないことだということを知り、誰もが気持ちよく生活できるように正しい判断をしようとする意欲と態度を育てるために、教材「わりこみ」(日本文教出版)を取り上げる。本教材は、人気のある遊具である滑り台の順番待ちをしているときに、初めは自分の前に割り込みをされて激しく憤る主人公「ぼく」が、自分のすぐ後ろに並ぶのは「構わないかな。」と思うものの、ずっと並んでいた他の人の反応を見て、悪いことは悪いと思い直し、はっきりと注意をするという内容である。割り込みがいけないことというのは認識していても、自分が損をしなければ別によいと判断してしまう主人公の弱さに共感させたいと、注意をした後の清々しさに気付かせることで、人として行ってよいことや悪いことの区別をし、進んで行動していこうとする思いが深まるようにする。

#### (4) 指導について

導入の段階においては、友達に注意したくなかったときにどうしているかについて、事前に行ったアンケート結果を提示することで子どもが学級の現状を把握しながら考えられるようにする。その際に、当時の気持ちを考えさせたり、理由を問うたりして、ねらいとする価値への焦点化を図る。

展開の段階では、教材の場面絵と映像を見せることで、子どもが割り込みの状況を把握したうえで問題場面について考えられるようにする。自分の後ろに移動した場面については、教師が割り込む子ども役となって役割演技をすることで、主人公の「後ろなら構わないかな。」という気持ちを共感的に捉えさせ、自分優位な考えで判断していることに気付くことができるようにする。また、役割演技を見ている子どもにどう思うか尋ねることで、「ぼく」の問題点について考えられるようにする。それらを踏まえたうえで、ぼくが「やっぱり、いけないよ。」と言った時の気持ちを考えさせ、ワークシートに自分の考えをまとめさせる。

終末の段階では、本時の学習をふりかえらせ、考えたことを発表させることで、よいことと悪いことを判断することの大切さに改めて気付き、よいと思うことを行動に移そうという思いを高められるようにする

#### 4 事前・事後指導

<b>事前指導</b>	○ よくないと思ったことを友達に注意するなど、進んでよいと思うことをしている事例について、朝の会や帰りの会等で話題にし、ねらいに関わる態度を大切にする。
<b>事後指導</b>	○ 本時の学習の板書と、子どもが発言した内容をまとめて学級に掲示したり、学級通信で子どもの思いを紹介したりすることで、道徳的実践につなげることができるようにする。

#### 5 学習指導過程

学習活動及び学習内容	指導上の留意点	教材・準備
<p>1 善悪の判断について話し合う。</p> <p>○ 給食中のある場面で、その選択肢を選んだ理由を教えてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 悪いことだから、直接注意します。</li> <li>・ 悲しい思いをしているから。</li> <li>・ ひとりじめはよくないと思う。</li> </ul> <p>○ 本時のテーマ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">友だちにちゅういできなくてもいいのかな？</div> <p>2 教材「わりこみ」を読んで、話し合う。</p> <p>【いさむさんが自分の前に割り込みをしてきた場面】</p> <p>○ このとき、ぼくはどう思ったでしょう。</p>	<p>○ 事前アンケートの集計結果を提示することで、子どもが学級の現状を把握しながら考えられるようにする。</p> <p>○ 給食中の2つの場面について、注意するかしないかの判断理由を問うことで、本時のねらいを焦点化する。</p> <p>○ 場面絵に合わせて、教材の映像を見せることで、子どもが状況を正しく理解して考えられるようにする。</p>	<p>タブレット TVモニター</p> <p>場面絵 教師用 PC わりこみの映像</p>

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ あとからきたのに、ずるい！</li> <li>・ ぼくがすべるのがおそくなってしまう。</li> <li>・ ぼくが先だったのに…。</li> </ul> <p>【いさむさんが自分の後ろに移動した場面】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ いさむさんが後ろに移動したら、僕はどう思うでしょう。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ これでぼくはすべれる。</li> <li>・ じゅんばんんはかわらない。</li> <li>・ べつにいいかな。</li> </ul> </li> <li>○ 並んでいた他の人はどう思うでしょう。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ やっぱり、ずるい。</li> <li>・ ずっと並んでいるのに。</li> <li>・ どうしてそんなことをするのだろう。ひどい。</li> </ul> </li> <li>○ 「やっぱり、割り込みはいけないよ。」といさむさんに注意したときの僕は、どんな気持ちだったのでしょうか。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ やっぱり いけない！</li> <li>・ ほかの人もずっとならんでいた。</li> <li>・ みんなのために、いさむに言わなくちゃ。</li> </ul> </li> </ul> <p>3 本時の学習をふりかえる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 今日の学習で考えたことは何ですか？ <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人に迷惑をかけるのはいけない。</li> <li>・ いけないことをしている人がいたら注意したい。</li> <li>・ 注意できると気持ちがすっきりする。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ペアで意見交流させてから全体発表に移ることで、子どもがより多様な考えにふれることができるようにする。</li> <li>○ 教師がいさむ役になり、役割演技をすることで、子どもが「ぼく」の立場になって考えることができるようにする。</li> <li>○ 役割演技を見ている子どもにも、どう思ったかと問うことで、子どもが「ぼく」の自分勝手な判断の問題点に気付くことができるようにする。</li> <li>○ 主人公の気持ちの変化に着目させることで、勇気をもって正しい判断ができたことへの清々しさに気付くことができるようにする。</li> <li>○ 導入で提示したアンケートを再度提示することで、子どもが自身の経験もふりかえりながら考えることができるようにする。</li> </ul>	<p>お面</p> <p>ワークシート</p> <p>タブレット TV モニター ワークシート</p>
---	---	---

## 6 本時の評価規準

主人公の心情の変化について考えたり、これまでの自分の経験をふりかえったりすることをもとに、誰もが気持ちよく生活するための判断の大切さに気付き、よいと思うことを自信をもって行おうとする思いを高めている。 【発言・ワークシート】

# 7 板書計画

友だちにちゅうい できる できない

- ・ きらわれるかも 心ばい
- ・ だれも見えていないから…べつにいいかな


友だちにちゅういできなくてもいいのかな？

わりこみ

人気があるすべりだい  
たくさんの人がならんでいる

- ・ あとからきたのに、ずるい！
- ・ ぼくがおそくなる
- ・ ぼくが先だったのに…

- ・ これでぼくはすべれる
- ・ じゅんぼんはかわらない
- ・ べつにいいかな



た

- ・ やっぱり いけない！
- ・ ほかの人もずっとならんで

いけないことをちゅういする…**すつきり**  
**言ってよかった**

◎ ふりかえり

いけないことはしてはいけない めいわくなことは友だちでも、きつぱりちゅういする